



会からのお知らせ

○ 8月度定例役員会

日 時 8月4日(土) 13:30～16:00
場 所 市民スポーツセンター大会議室
役員会の前にニュース等の封入作業があります。(13時にお集まりください)
会員の皆さんはどなたでも出席できます。是非お出でください。

○ 他稲門会等への出席

東京三多摩支部北部ブロック会議 6月28日(木) ルネ小平 13時30分
三宅会長 小亀事務局長出席
第2回稲門祭実行委員会 7月10日(火) 小野梓記念館 18時～
小亀・風間・當間 出席予定
商議員会 7月14日(土) 三宅会長・山下相談役・大西顧問出席

○ 8月度お誕生会 (担当芦田)

日 時 8月4日(土) 17:10～19:00
場 所 割烹 丸藤 (久米川駅南口 徒歩1分)

* 8月度お誕生の方々 (敬称 略) 12名

有賀 博・小林 博・高柳忠正・辰巳慎次・丹野 寛・南湖修一・野田 数
服部牧子・林 基樹・番場吉次・福田昇七・山下邦康

○ 「2007年稲門祭・福引き券完売しました」

10月20日に行われますホームカミングデー福引き券の当会割りあて分は幹事の皆様のご協力により完売いたしました。なお、当日売りもありますので皆様是非ご参加ください。
21日には創立125周年記念式典並びに稲門祭アトラクションも行われます。

○ 第53回東村山雑学講座

日 時 9月8日(土) 15:00～16:30
場 所 未定
講 師 田中忠行氏 (豊島屋酒造社長)
演 題 お酒との楽しいつきあい方 (仮題)
地元久米川町で酒造業を営む田中社長は、お酒の飲み方でも達人。
「楽しく飲んでリフレッシュ」を、わかりやすくお話しいたします。

○ 9月1日（土）映画 「ゼロからの風」ルネこだいらで上映
校友会三多摩支部北部ブロック主催

創立125周年記念校友関係行事として、地域発 125フェスティバル
—— 世界をワセダ色に染める —— というタイトルで全国の稲門会に何か行事を行って欲しいという要請が大学校友会からありました。

三多摩支部としてはこの催事を北部・中部・南部のそれぞれのブロック単位で行うことになり、私ども北部ブロック（小平・西東京・東村山・東久留米・清瀬・福生・あきる野 稲門会）では支部長の小平稲門会の西村会長を中心に検討の結果9月1日に映画の上映会を行うことといたしました。

なお中部ブロック（立川、国立、昭島、青梅、国分寺、小金井、武蔵野、三鷹）では立川稲門会が中心となっており、南部ブロック（町田、狛江、多摩、稲城、八王子、調布、府中、日野）では府中グリーンプラザで9月8日（土）に同じ映画の上映会を行うことになっております。

この映画は早稲田大学に入学した最愛の息子を飲酒運転かつ無免許の犯人によって奪われ、軽すぎる刑法と厳しい社会の現実にも屈せず法律を変えた一人の母親の実話に基づいた物語です。この母親（鈴木共子さん）はその後息子の学んだ大学で息子の人生を代わりに生きたいと、2年間勉強を続け早稲田大学第二文学部に入学し、今春晴れて卒業されました。当日は鈴木共子さんもお見えになりお話をしていただくことになっています。

この行事は会場費等は大学から補助金が出ますが、チケット代は映画制作の協力金として位置づけ1枚1000円となります。

是非一人でも多くの方にご覧頂けますようお願い致します。当会には100枚の割り当てがありますので、お出で頂ける方は、事前に事務局小亀（394-6951）までお電話のうえ、当日会場の東村山稲門会の受付でチケットを買ってください。また、8月4日の役員会（市民スポーツセンターで13時より）の折りにも販売を行っています。最近いろいろな行事がありますが、役員・幹事の負担になることが多く是非会員の方のご協力をお願いいたします。またこの行事にボランティアとしてお手伝い頂ける方がおられましたら小亀までご連絡ください。

9月1日（土） 開場：14時 開演：14時30分
小平市民文化会館 “ルネこだいら” 大ホール



同好会だより

園芸の会

世話人 當摩照夫・彰子 TEL 396-3033



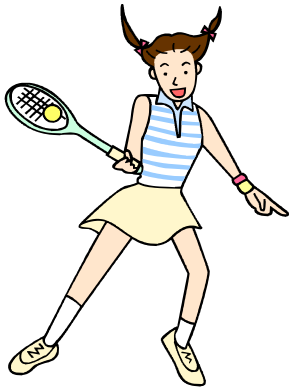
次回の園芸の会を下記のように行います。次回はサギ草の鑑賞会です。

皆様、ふるってご参加ください。

日時 平成19年8月18日（土） 午後3時～5時
場所 東村山市市民スポーツセンター、スポーツクラブ室

テニス同好会

世話人 當間 昭 治 TEL 391-6023



6月の例会は2日(土)久米川コートで実施、参加者は田島、當間に當間の叔父の3名、前回中止の影響か少し寂しい結果となりました。人数の少ない分普段はできないシングルの試合をし、1位は日曜のスクールで腕をあげている田島さんでした。7月と8月、暑さに負けず、新メンバー是非ご参加ください。

記

日時 7月 1日(日) 午前9時～午前11時

8月12日(日) 午前9時～午前11時

場所 両日とも久米川コート3

囲碁同好会

世話人 野村 保 夫 TEL 394-0417
高 鷲 近 394-2336

●6月例会と6/9オール早稲田囲碁祭の報告○

●6月の例会は、6月16日(土)市民センター別館第6議室で下記9名が参加して行われました。

一色、江藤、久世、佐久間、鈴木、田代、中川、野村、丸本
全勝は鈴木氏でした。

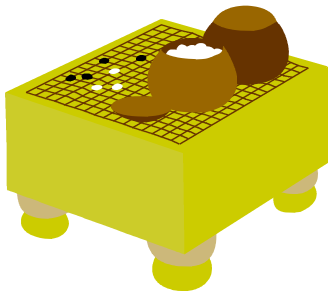
○次回夏の大会は8月25日(土)午後0時半から、第6会議室で開催の予定。

●第7回目となる「オール早稲田囲碁祭」が6月9日(土)に市ヶ谷の日本棋院で開催されました。今回は昨年より更に参加者が増え、300人規模となりました。当同好会からは以下のメンバーが参加し、Bクラス8チーム中4位に入賞しました。

(敬称略) 福田／3勝1敗；鈴木、高鷲、佐久間／各2勝2敗、
野村／1勝3敗

また、個人戦では江藤氏が3戦全勝で優勝しました。

○今秋10月28日(日)午後から、創立125周年記念として「オール早慶囲碁祭」が聞かれます。詳細は次号に。



ゴルフ同好会

世話人 堀田 秀 夫 090-8339-7179

第二回会長杯(第22回) ゴルフコンペのお知らせ

9月9日(日)

西武園ゴルフ

集合時間 8時

スタート 8時41分より、6組

費用 18,000円程度

参加費その他 4,000円

ご希望の方は下記の堀田携帯までお早めにお聞かせください。 奥様・ご子息の参加大いに歓迎であります。多数のご参加をいただき、賑々しくゴルフを楽しみたいと存じます。以下の方々(敬称略)は参加の希望をいただいております。

三宅・井垣・芦田・相馬・高部・月森・益田・紅松夫妻・石塚・鍋島・山室・津野
戸田・堀田

堀田 090-8339-7179

ウォーキングの会

世話人 高橋正夫 TEL 309-3407
土橋雄次 393-5708

第三回ウォーキング 「玉川上水・野火止用水路沿いの緑の木陰」をウォーキングしよう。
下記要領で行いますので奮ってご参加ください。

小雨の場合は決行、雨天のときは翌29日。

- 1) 集合日時：7月28日（土） 午前10時（時間厳守）
- 2) 集合場所：西武線・八坂駅隣ガード下。
- 3) 行程：九道の辻（府中街道・野火止用水の交差点）より野火止用水
沿いを玉川上水放水口へ（4.5 Km）。 帰りは玉川上水沿いを
下り、鷹の台駅へ（3.7 Km） この駅で解散。

参加費無料。小雨の場合は朝8時半までに土橋にTELで確認してください。

第二回ウォーキング記（5月26日）

前日までの雨がうそのように晴れ上がった5月26日、参加者6名で9時すぎに小川駅を出発し、奥多摩駅に向かいました。駅からはバスで奥多摩湖で下車し、江戸時代、甲州裏街道とも呼ばれたという旧青梅街道の「むさしのむかし道」、約10kmのゆるい下り道をハイキングしました。

雨のあととて、ひときわあざやかな新緑の道に聞こえる鶯の声も心地よく、紺碧の水をたたえた奥多摩湖を見下ろしながら最初の休憩点の浅間神社で昼食。旧小河内ダムは貯水容量1.8億トンで、これほどの容量のダムは地形的にも費用的にももう建設不可能とのことです。コースにはゆかりのある地藏・観音様が路傍にひっきりなしに現れ、改めて昔からの庶民の熱い信仰心に思いをいたしました。また多摩川の惣岳溪谷にかかる数本のつり橋からみる溪相もなかなかのものでした。旧小河内鉄道の廃線跡を過ぎると、終着の奥多摩駅も近く、ゆったりしたペースでしたが、約4時間と汗をかいて3時すぎのホリデー奥多摩号で帰路に着きました。

参加者：芦田、井出、大西、高橋、土橋、三宅。

（高橋記）



俳句同好会（稲酔会）

世話人 高杉修 TEL 391-8447
井垣和太 04-2924-2934



第32回「稲酔会」句会は6月23日（土）午後1時から恩多ふれあいセンターでおこないました。

参加者は、高杉風至、井垣稲雀、丸本北窓、大西回生、風間和夫、内藤慎、高部糸、芦田火吐四の8名。投句参加は八木竜湖、大野恵峰、田瑞雄の3名。

兼題「梅雨」はこの時季にドンピシャリと考えていたのが、当てはずれの好天続き。本格的な雨は梅雨入り宣言後僅かに1日という空梅雨に苦労されたと思いますが、兼題句23句と新詠28句の計56句を鑑賞し、互選、合評に花を咲かせました。会員各位の作品は別掲「俳壇」をご覧ください。

句会の面白さは、作者自身が快心の作品と意気込んで出句したものが誰にも選ばれず、句会の直前に浮かんだ作品がおおいに受けたりすることです。

また作者自身が思っても見ない情景を読み手がその作品から受け取り、感動してもらえたりすることもあります。

一堂に会して作品を披瀝し合い、鑑賞批評することが俳句への理解を深め、お互いの力を高めていく大きな原動力でもあります。俳句が「座の文学」と言われる所以でもあります。

次回（第33回）は8月25日（土）午後1時から恩多ふれあいセンターでおこないます。

兼題は「秋風」。自由題句は「夏又は初秋の季語」を使ったもので参加してください。

俳句をやっていると四季の移ろいが17文字（音）の記録として自分の人生史にもなります。

（稲雀記）

カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071



6月度例会は6月2日カラオケランドズーにて開催しました。
芦田、井垣、高鷲、高部、田口、内藤、山下の各氏7名に誕生会参加の大内様と合計8名で初夏の一夜を楽しみました。
参加は自由です。遠慮なく参加をお待ちいたします。

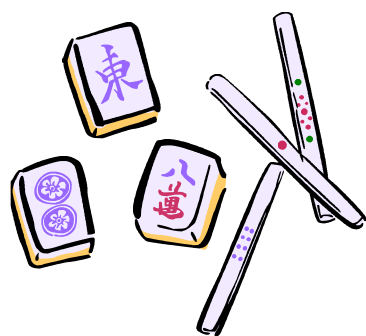
今後の予定

7月13日(金) 新宿歌舞伎町 芽ぐみ 17:00～20:00
tel; 03-3207-3496

8月 4日(土) カラオケランドズー 19:20より

麻雀同好会

世話人 小野 智 TEL 391-9523
松永 常尚 332-5621



第39回大会を去る6月17日(日)マージャンMにて4卓16名での雀戦を展開しました。定刻12時30分開始、予定通り17時に4回戦の卓を閉じました。

優勝者は実力発揮の内藤氏、準優勝者は常連の土橋氏でした。尚同氏の輝かしい戦歴をご紹介します。過去10回(第30回～第39回=16/12～19/6)の中、優勝1回準優勝5回と如何なく賞金稼ぎ(泥棒?)の名に値する東村山稲門麻雀同好会の真の実力者No.1の栄冠を贈りたいと思います。・・・かかる個人情報の公開により今後、彼は多くのヒットマンに狙われる雀士となるでしょう。

以下賞金獲得者は當間、田口、松永、三宅、次いで番場の各氏で、残念ながら番外者は江藤、鈴木、山下、中川、小野、芦田、佐野、小亀、久世の各氏でした。三宅会長からのジョニ赤の寄贈も加えて戦い後の全員参加の懇親会也大いに盛り上がりまして、小亀氏の音頭で雀荘の中での「都の西北」を合唱して捲土重来、次回の戦いを心に期して散会しました。

次回は9月30日(日)に予定しています。今から手帳に予定のサインをしておいてください。

(松永記)

音楽同好会

世話人 高橋文子 TEL 393-2676



第一回の例会を5月27日(日)午後2時から恩多ふれあいセンターで行いました。参加者は市川彰彦さん、江藤さん、大西さん、岡田さん、重原眞知子さん、夫婦で参加の高橋文子の計7名。新作の「東村山稲門会の歌」と初夏の季節感漂う歌を10曲ほど楽しく歌いました。当日のサプライズはオカリナ演奏(市川さん)とギター演奏(高橋の夫)のアンサンブルでの「千の風になって」。初夏の午後の一服の清涼剤となりました。

次回以降の予定は下記の通りです。どうぞ皆様のご参加をお待ちしております。楽器演奏也大歓迎です。なお次回曲目は「浜辺の歌」、「椰子の実」、「夏の思い出」、「山小屋の灯」、「この道」などです。

第2回 日 時: 7月29日(日) 午後2時～4時
恩多ふれあいセンター

第3回 日 時: 8月19日(日) 午後2時～4時
恩多ふれあいセンター

俳 壇

八木 竜湖
螢火の落ちて歩はばを正しけり
鎌やすめ螢ぶくろを眺めある

芦田火吐四
雨だれにあじさい揺れる蔵のかげ
浅間神社や四方切断ち春の風

井垣 稻雀

山頂の指呼の間なる五月晴
隠れなき五月の嶺や温泉に浸る

大西 回生

奥多摩の湖面に遊ぶ燕の子
ハンドルをめげずに握る走り梅雨

大野 恵峰

桑の実に染りし指の節くれて
ベーコンを炒める香り夏至の朝

風間 和夫

すれちがふ仄かな香り白日傘
宿浴衣し判ばかり揃へをり

幸田 瑞雄

走り梅雨朝食抜き検診に
亡き母のふるさとの寺風薫る

高杉 風至

青梅雨の日本を思いゴビに在り
帰国せしことをしみじみ梅漬くる

高部 糸行

雨待たずあじさい繁く色遷る
一周忌読経にこたえ遠い雷

6 月度「お誕生会」報告



担当幹事 芦田 均 393-7525

6月2日（土）17時15分頃、6月に誕生の6名をはじめ、役員・幹事で、総勢18名で、お祝いをスタートした。

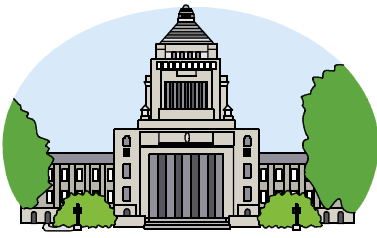
三宅会長から開会にちなんで、當間昭治副会長からは乾杯の音頭に絡んで、お祝いの言葉を頂いた。今回は、役員・幹事さん、一人一人からもお祝いの言葉・自己紹介を頂いた。

6月誕生日の大内一男様は西武にお勤めで、倍率50倍の難関を突破して今の久米川駅に近い豪華マンションを入手以来、最近までの変遷の早さ、と逆に昔からの大事な言葉「感動」が安っぽく使われすぎ、と当代への風刺？また、ご子息が早実で斉藤祐樹君と同期、六大学野球観戦に力が入った、など近況を。「東村山に4歳から住み始め市内で4回転校、今は定年後6年、読書等平々凡々とあせらず生きて行きたい」と小川靖郎様。風間和夫様からは戦争時の体験や、「昭和53年以来ずっと東村山に住んでおり、まもなく金婚式、これからは妻とつつがなく暮らして行きたい」。田口政澄様は2年前に今の企業に勤め換えされ、人材集めに奔走する一方、ハングル語をハングリー？精神を以って勉強中に学んだ「人間の記憶（力）」について含蓄のあるお話を頂いた。ご母堂をなくされた津野慶浩さんは、「千の風になって」が最近では印象的な歌。また、こうして毎年誕生を祝ってもらえるのは喜びである、と。今後は趣味の陶芸、ゴルフ等を「エンジョイしていきたい」とのこと。12日に76歳になられた吉本正典さんは定年後久米川町に落ち着き、これからは「健康に留意して趣味をエンジョイして行きたい」。

三宅会長から渡された記念品の贈呈、赤荻さんによる記念写真撮影と続き、最後に長井幹事に閉めの挨拶、井垣さんご指導による東村山市稲門会の歌、校歌斉唱で幕を閉じた。

なお、市川彰彦さんは、ご出席の予定でしたが、体調を崩され急遽欠席となりました。

内藤 慎
あたらしき地蔵の頭中夏柳
梅雨最中躓き易き路なりき
丸本 北窓
高下駄の音なつかしき梅雨の入り
十葉や勝手口なる薄明り



憲法改定論議と三島由紀夫事件の関連

内藤 慎 (S 2 8 商)

戦後 6 0 年経過した今日憲法改定論議が盛んになりつつありますが、今回一つの観点より述べて見たいと思います。

事件の概要

昭和 4 5 年 1 1 月 2 5 日 1 0 時 4 5 分、三島由紀夫は自ら組織した盾の会の班長ら 4 名を引き連れて約束どおり自衛隊市ヶ谷駐屯地に到着した。益田総監を騙し拘束、手足を縛りつけた、3 箇所の入り口を机や椅子でバリケードを作りたてこもる、異変を知り自衛隊側は突入を図る、しかし 2 名が切られ負傷者と共に室外へ、更に再度 7 名で突入、寺尾二佐（筆者と早稲田の同級生）が総監を拘束していた短刀をもぎとりはしたが背中を三島に切られ、他 3、4 名が切られた、やむなく負傷者を室外へ、その後三島の要求を聞き本部前に自衛官を集めクーデターの意義の演説を行い、話が通じない事を悟り、話を止め総監の目の前で三島、森田の 2 名が割腹自殺をした。

何故あのような行動を起こしたのか

三島の論理

政体を守るのは警察

国体を守るのは自衛隊（現憲法上自衛隊の存続は違法）

併しながら政治上憲法改定を公然と推進する事は不可能でした。4 4 年の安保闘争において自衛隊の出動を待たずに警察力により鎮圧されて仕舞い、自衛隊の存在を証明する憲法改正を公然と論議する必要がなくなり、政治家の独自の解釈により軍隊で在りながら軍隊ではないと言う論理が大手を振り罷りとおるようになり、現在も大勢を占めています。この論点から三島は自衛隊を啓蒙する目的の手段としてあとに続く者を信じ、日本国民を、残した盾の会の若者にその真意を継承する事を望んだと思われる。

何故死を選んだか

死が強烈なインパクトを人々に与えることに何等疑いを抱かず、西郷隆盛や神風連、また特攻隊の夫々の死が強烈に人々に意識され美化され永遠に受け継がれるであろう死の美学が根本にあると思われる。

従って自分の死が自衛隊を促し、憲法改正を行い、自衛隊が公然と認識され、天皇を中心とした国防の大儀のもとに本来の日本を取り戻して欲しいと望んだ。

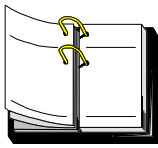
事件の評価とその後の日本

多くの人が彼は気が狂ったので、その行動は常人の理解できるものではない、また理解する必要もないと言い、理解の外に押し出す事により、自己の考え方を正当なものとする逃げの論理と受け取れる。死者の裁判も開かれず、真相は解明されず犬死扱いで彼の思いは闇の中。

彼の行動を弁護するつもりはないが、何らかの理解が出来るものが有るならば見つけ出す事は必要ではなかろうか、その後の社会情勢は何等の変化もないのではなかろうか、政治家はどうか、自衛隊はどうか、日本国民はどうか日本の国をどう考えて居るのか？

目先のみの平穏にのみ、目を向け、国家百年の大計のもとにどう歩むのか大綱が、大方針が示されていないと思われます。

今月の予定（7月）



1日（日）テニス同好会

7日（土）7月度役員会

雑学講座

お誕生会

13日（金）カラオケ同好会

28日（土）ウォーキング同好会

29日（日）音楽同好会

8月上旬の予定

4日（土）8月度役員会

お誕生会

カラオケ同好会

12日（日）テニス同好会



編集局だより

編集局：小亀、中村

○今日7月7日は七夕（たなばた）です。七夕は日本固有のみそぎ行事としての「棚機（たなばた）の女」（たなばたつめ）と中国由来の亀甲篋（きっこうでん）という風習に基づいています。

（七夕の語源・由来等について知りたい方は小亀まで連絡頂ければ資料さしあげます）おそらく、今日は幼稚園や小学校低学年の子供達は夢や、願い事を書いた折り紙を笹にささげて帰って来ることでしょう。日本の年中行事がすたれていく中で、こういう風習は是非残して欲しいと思います。そして子供達の夢が少しでも叶う社会にしたいものです。

○大学にひと言

斉藤祐樹君の活躍で、最近早稲田はマスコミに取り上げられることが多く、それはそれで嬉しい気持ちもあるし、いろいろな改革をしていることも高く評価したいが、大学本来の使命である研究・教育の充実に一層の努力をして頂きたい。さらに言えば、少子高齢社会でさまざまな問題を抱えているこの国のオピニオンリーダーとして早稲田大学教員の社会に対しての積極的な発言を期待したい。（小亀輝雄）

○「私は何時から幾らもらえるのだろうか？」 個々人の年金への関心はこんなところでしょうか。“いつから”は分かっているので“いくら？”を確認してみようと社会保険事務所に問い合わせをしたことがあります。示された回答に何の疑問も持たず、すんなりと納得しました。加入年数は自分の記憶と合っているし、見込額も当然正しいはずだと信じたのでした。ところがその後社会保険庁の年金記録に対するずさんな管理が問題となりました。保険料の納付実績に応じて将来の年金給付が行われる社会保険方式のもとでは加入履歴の間違いなどあってはならないことでしょう。制度の根幹に関わることです。自分の記録はまあ大丈夫と安心することなく、年金制度の改正・問題の解決を注視していこうと思っています。

○今年は時間があつたので久しぶりに果実酒を作ってみました。定番の梅酒に加え初めてプラム酒を作ったのですが、すぐにきれいな色になり驚いています。ロゼよりやや濃いめの紅色といった感じです。どんな味になるのか3ヶ月後が楽しみです。

○次号の原稿締め切りは7月25日です。よろしく願いいたします。

（中村真弓）